

褒め褒め大作戦 Part2

～「頭がいいわね」と「よく頑張ったわね」—どちらが効果的?～

教頭 本間 智英

6月21日発行の『学校だより 第5号』でお願いしました「褒め褒め大作戦」にご協力いただきありがとうございます。

「なんだっけ?」と思われた方、安心してください。学校だよりは、高千小学校ホームページにアップしてあります。そちらをご覧ください。



ところで、おうちの方は、「頭がいいわね」と「よく頑張ったわね」は、どちらが効果的な褒め言葉だと思いますか? 『「学力」の経済学』(中室牧子著 ティスカバー・トゥエンティーン)で、「褒め方」について次のような研究結果が書かれています。

コロンビア大学のミューラー教授らは、公立小学校の生徒を対象にして「ほめ方」にかんする実験を行いました。その結果、わかったことは、「子どものもともとの能力(=頭のよさ)をほめると、子どもたちは意欲を失い、成績が低下する。」ということです。

「頭がいいね」ともともとの能力をほめられた子どもは、テストでよい点数が取れなかったときには、成績についてウソをつく傾向が高くなります。また、彼らは、よい成績を取ったときはその理由を「自分は才能があるからだ」と考え、悪い成績を取ったときも「自分は才能がないからだ」と考える傾向があるとわかっています。

一方、「よく頑張ったね」と努力した内容をほめられた子どもたちは、悪い成績を取っても、それは「(能力の問題でなく)努力が足りないせいだ」と考えたようです。

子どもをほめるときは、「あなたはやればできるのよ」でなく、「今日は1時間も勉強できたんだね」「今月は遅刻や欠席が一度もなかったね」と具体的に子どもが達成した内容を挙げるのが重要です。そうすることによって、さらなる努力を引き出し、難しいことでも挑戦しようとする子どもに育つというのがこの研究から得られた知見です。引用 上掲書 P49-51

※上掲書では、「ほめる」と表記されているのでそのまま引用しています

私たち職員も上記のことを意識し、子どもたち自身では気付いていない子どもの具体的な行動を褒めるようにしています。以下は、児童玄関に掲示されている職員が見つけた子どものよさです。

- ・パワーアップ週間で、玄関から出てダッシュでランニングに向かい、力を出し切って走っていました。
- ・1年生が楽器の片付けがうまくいかなかったときに、やさしく声を掛けて手伝ってくれました。すぐに行動できるところが素晴らしい。
- ・そうじでは、早く自分の仕事を終わらせて、他のところのそうじを手伝っていました。先を見越して行動ができて素晴らしい。ありがとう!

